

行人岳の行者さま（福岡）



たいぎゃにゃ昔の話ばって、どっから来なしたもねエろ行人岳にゃ白か髭バもじゃもじゃ生やした行者どんの棲みちいとらしたちゅうタイ。

「わしのこの一本歯の下駄は、なかなか履き心地が良ろしい。この下駄を履いとれば、鶴から行人岳の頂上まで、あっと言う間に上り着くことができるわい」ち言いながら行者どんなひょいひょいやって跳び回らっとちゅうモン。

近所ン衆いたちも、あんまり調子ンゆう跳び回らすもんじゃって「こりゃあ大したもんバイ、天狗どんのごたる。一本歯ン下駄で跳び回らすトン、よっぽで修業ば積んどらす偉か人じゃろうだな」ちゅて感心したり、そぎゃん評判ば聞きつけて、わざわざ遠うか所ら見物人まで来らすごてなしたちゅうタイ。

行者どんなネ、人も住まん山奥で草てろん木の実てろん生物ばあっかり喰うて七年余りも激しか修業バさしたちゅうけん、とうとう一本歯ン下駄履んで跳び上がったたり、空バ飛うっさるかすごてなしたちゅうタイ。

「ようし、こんどは雲仙岳まで飛んでみせよう」ちゅて行者どんな太か手バえっとばかり広げて、お堂ンにきん大岩ン上エ ひょいっち立ち上がって「おいっちにいノ」ちゅうて膝バ曲げ伸ばして弾みバ付けて爰えて、一本歯ン下駄で大岩バ蹴りつけらしたとん、ブーンちゅてうなりばあげてアッチゅう間やに行者どんナ大空さね舞い上がらしたちゅうワイ。

グワ〜ンち、地響ンしたち思うたりや、両手両足バ揃えたまま、雲仙岳目がけて飛うではってかしたちゅうワイ。そして雲仙岳に着陸さしたち思うたりや、またじき行人岳さにゃ飛び戻って来らすとちゅた。

何様そりゃあそりゃ血の出くるごたる修業ばさすとちゅうで、あぎゃん術がでくるごてなした訳じゃっかい。

そん内い、行者どんにゃ弟子のちいて、ひんがみやあ日弟子たちにも烈しか修業ばさせらすとちゅたい。

ところが、ある日のことじゃっかい、行者どんの留守ばよかことに「俺りも一本歯の下駄ン威力バ試して見ゆう。雲仙な無理でん、口ノ津ぐりゃアまでなるバ飛びきって、力はまあまだばってん、なあんのかん一本歯の下駄バ履んどれば大丈夫じゃろ」ちゅうて、あん大岩ン上に立って爰えて「エイッ」ちゅて飛び上がったちゅたい。

「こりゃあんびゃんゆういったバイ、何の事アなか、風ン流れにゆうっと乗りしゃかすれば口ノ津までだ屁のこっばじゃもね」

ところがじゃっかい、ちょうど鬼池ン海にさしかかった時、なんさま強か海風ンびゅ

～んちゅて吹き付けてきたちゅもん、こっじゃどうもこもならでにゃ弟子や調子とりそくのうて、海岸の岩ン上さん「ズテーン」ちゅて墜落してしもたちゅワイ。

(雲仙が見える海岸の岩の上には、その時の足形が今でもまだ残っとるそうです)

「カーッ、このわしに、ことわりもせエでにゃ、一本歯ン下駄バ履んで飛ぶちゅは何ごつか、けしからん奴じゃ。お前はまあまだ、修業が足らん」ちゅうて、行者どんな太か声で目玉ンふっ飛びづるごて、しこたま弟子におごられたちゅじゃっカイ。

こん行者どんの住んどらす行人岳はにゃあ、初手エから島原てろん鬼池てろん漁師どんたちの方角ば見定むる目星にしとらいたちゅもん。行人岳と高木山があすこじゃけんちゅ目測で漁場てろん舟ン進路バ決めたりしとらいたもんじゃっかい。

ある日ン事、鬼池ン漁師どんが辺りン暗うなるまで、沖で漁バしとらいたちゅモン。その日は、面白かごて魚ン釣れてねえ「こがん釣るったア珍しかこっバイ。あと五、六匹釣ったろう戻ろうバイ」ちゅて、ひとりごっどん言うとらいたりゃ、ひょくっと曇ってもうて海が時化じゃあてネ、波は高こうなるし大嵐になってしもうたちゅタイ。こまあか舟じゃって、ちょうど木の葉ンごて、揺れじゃあてない。

「こりゃちゃんしもうた、釣りに夢中になっったりや雲行きも見えんごてきゃアひなった。目星ン行人岳もどっちじゃいろ、さっぱり判らん。こぎゃんなったろバ行人様をお願いするより他無かバイ」ちゅて漁師は手バ合わせてから「行人様、どうかお助け下っせ、お礼詣でにゃ新しか一本歯ン下駄バお供え致しやすけん。どうぞお頼ん申します」ちゅうて、一生懸命拜んもさいたちゅうワイ。

そりからいいときしたりや遙か彼方ン山ン方にボ～ッちゅ光りの浮き上ってネ、チカチカ瞬きだしたトン、真っ暗かった海が次第に白みかけたちゅうワイ。

「あッ、あれは確きゃア行人様ンお灯ばい。有難たや、有難たや、これで助かったア」ちゅうてネ、急に元気付かいた漁師どんな、そのお灯バ頼りに力いっぴゃ漕ぎ出さいた処が、アちゅう間に鬼池に戻りちいて命びろいさいたちゅじゃっかい。そぎゃん事ンあってから、

「何ちゅうありがたかこつじゃろうかいまこて、行人岳ンあん不思議なお灯は行人様ンお導きじゃったに違やあなか、じゃろうじゃろう、たしきゃアそぎゃんバイ」ちゅうて、漁師どんたちや、どんこん有難がってにゃあ、毎年行人様に、一本歯ン下駄バお供えしてサイ、豊漁と安全祈願のお参りに来らすごてなった、という話じゃっかい。

こっで、しみゃあ

※今でも旧暦三月の彼岸の入りの頃、行人様のお祭が行なわれ、地元の福岡地区の人たちはもちろん、鬼池宮津の漁師さんたちも行人岳に登り、お参りに訪れています。お堂の裏手には行人様のお位牌が祀られており、その石碑に着いている青々とした苔を、少しずつ剥いで持ち帰り、御守りにしているそうです。

